

**衆議院議員選挙立候補予定者を対象とした  
茨城県の水源地開発問題アンケート集計**

平成 21 年 8 月 7 日  
茨城県の水問題を考える市民連絡会  
代表：船津 寛 濱田篤信  
事務局：神原禮二  
取手市白山 1-8-5 090-4527-7768

茨城県民にとって、水源地開発問題は総選挙の有る無しに関わらず重大な関心事です。そうした中、今回の総選挙は、民主党、日本共産党、社会民主党など野党の各党が「八ッ場ダムの中止」を無駄な公共事業のシンボルとしてマニフェストに掲げました。

霞ヶ浦導水、八ッ場ダム、湯西川ダム、思川開発と、国が進めるすべての水源地開発に参加する茨城県にあっては、まさに県論を真っ二つにする争点になります。私たちは、有権者の一票が有効に働きますよう、立候補予定者がこの問題に如何なる考えを持って選挙に臨むかを明らかにするため、下記のアンケートを試みました。

以下集計結果をご報告いたします。※以降敬称略

■アンケート実施(郵送):7 月 24 日

■アンケート対象者:実施日までに事務局で確認できた選挙区候補予定者 24 名

■アンケート回答者 8 名

民主党：柳田和己 大畠章宏 高野 守 福島伸享 石津政雄

日本共産党：田谷たけお 幸福実現党：中村のぶたけ 野口航太

■アンケート無回答(無返信)者 16 名

自由民主党：赤城徳彦 額賀福志郎 葉梨康弘 梶山弘志 岡部英明 丹羽雄哉

永岡桂子 民主党：小泉俊明 大泉博子 公明党：石井啓一(比例)

幸福実現党：金沢光司 中村幸樹 宮本春樹 鈴木俊博 杉浦 昭

無所属：中村喜四郎

**設問:茨城県の水源地開発問題を列記いたします。ご精読いただき下記にお答えください。**

- ①茨城県の都市用水(水道用水+工業用水)は、日量 80 万 m<sup>3</sup>、水道用水に換算して 200 万人分余っています。
- ②水道用水の給水実績は、ここ 10 年ほど給水人口の増加、水洗便所の普及がありながら減少傾向を見せています(原因は節水機器の普及、冷房の普及による夏季需要の減少など)。
- ③茨城県人口は 2000 年をピークに減少期に入り、今後、急速な減少が予想されています。
- ④茨城県の水余りは、1995 年の霞ヶ浦開発の完成によって惹き起されました。開発水量は日量 169.3 万 m<sup>3</sup> と膨大ですが、都市用水と農業用水の使用量はここ 10 年、74.3 万 m<sup>3</sup> 前後を推移し、56%もの水が使われていません。
- ⑤現行の「いばらき水のマスタープラン」では、計画達成年度の平成 32 年には都市用水の余剰を 46 万m<sup>3</sup> 見こんでいます。同プランは現在使用している地下水、自流入川水 27 万m<sup>3</sup> を削減していますから、実際は 73 万m<sup>3</sup> の水余りを県自身が認めていることとなります。

- ⑥茨城県は、霞ヶ浦導水、八ッ場ダム、思川開発、湯西川ダムの開発を進めています。総開発水量は62万m<sup>3</sup>。県民負担は1900億円に上ります(起債利息等含む)。
- ⑦茨城県の水道料金は首都圏で突出して高いものになっています。
- ⑧私たちの水余りの指摘に対して、県当局は茨城県の水余り、人口減少は認めながら、「水余りは霞ヶ浦にあり、つくばエクスプレスなどの開発で、利根水系(県南・県西)は人口の増加が見込まれ、水需要も増える」と主張しますが、県自身の予測でも、利根水系の人口ピークは僅か6年後の平成27年、以降は急速に減少するとしています。
- ⑨茨城県の県債残高は1兆8000億円を越え、未曾有の財政危機に瀕しています。

**ご質問:霞ヶ浦導水、八ッ場ダムなどの水源開発をどうされますか、○印でお答えください。**

**イ 計画どおり進める      ロ 撤退する      ハ 判らない**

**回答:ロ 撤退する…大畠章宏 田谷たけお 野口航太 福島伸享 柳田和己 石津政雄  
ハ 判らない…高野 守 中村のぶたけ**

コメント:柳田和己 私は2008.8.18政府の無駄な公共事業として八ッ場ダムを視察して参りました

中村のぶたけ 幸福実現党では、3億人・人口国家ビジョンを提言してます。茨城県はとくに広大な平野を生かし、人口増加と、基幹産業の誘致に力を入れます。その時は、水が必要となるでしょう。

### **アンケートを省みて**

今回のアンケートは、対象になる候補予定者が多忙を極める選挙運動中ということから、霞ヶ浦導水、八ッ場ダムなど四つの水源開発を「推進する」「撤退する」「判らない」の3点に絞込み、①回答をし易くすること。②主張を明快にすること。③有権者の判断をし易くすること。を心がけました。有権者の立場からすれば②と③の目的は達成されたと思いますが、①は多くの無返信を見たことから、私たちの配慮は空振りに終わったと認めざるを得ません。もっとも、政権与党である自由民主党、公明党の候補予定者は、すべてが無返信という結果になったことは、水源開発に対する従来の姿勢(=開発推進)からして、私たちを敵対する団体と見て意図的に無視したと思わざるを得ないでしょう。

このアンケート結果を有権者が選択の一助とされるならば、回答者の主張は勿論として、無回答者の背景も含めて判断されることを期待いたします。